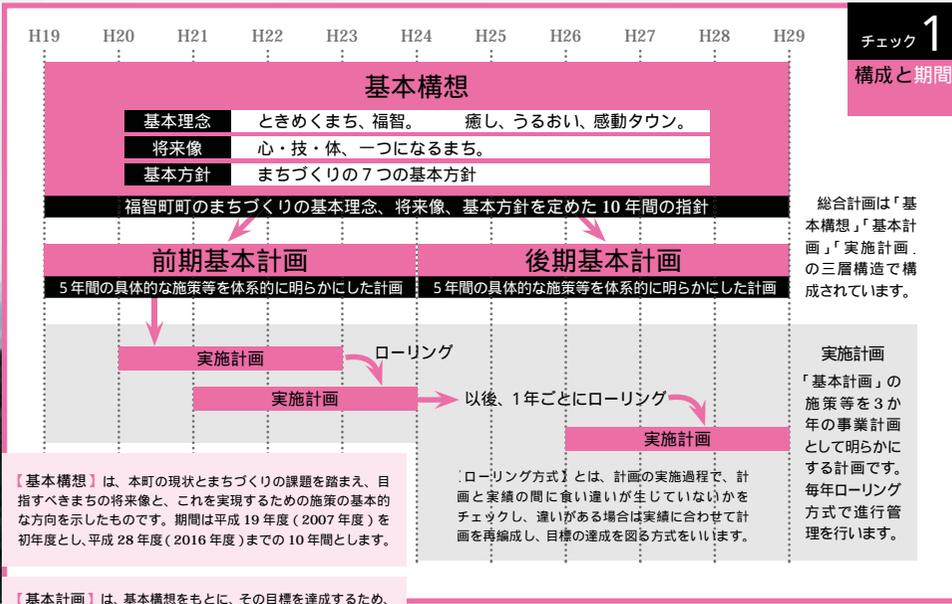




まちづくりを効率よく、最大限効果的に行うことは、この福智町に課せられた最も大きな使命です。厳しい財政状況や身の丈に応じた行政サービスを進めるためには、その指針となる計画が欠かせません。およそ1年間の協議を経て、町の最上位計画である「第1次福智町総合計画（まちづくり計画）」が審議会から答申され、9月21日に9月定例町議会で可決されました。ここで基本構想の概要を紹介します。



第1次福智町総合計画(まちづくり計画)策定!

計画概要
ときめくまち、福智。

計画策定の背景と目的

少子・高齢化の進行や高度情報化、地球規模での環境破壊、厳しい行政財政状況など、時代環境が急激に変化しているなか、一方で町民ニーズの高度化・多様化がますます進むことが予想されます。

また、地方自治体においても新たな地方のあり方が問われ、地域の実情や町民ニーズを的確に反映させ、自己決定・自己責任による地方分権時代に対応した自治能力の向上を図ることが求められています。

これからのまちづくりには、町民と行政など、あらゆる関係者がともに考え、支え合う協働のまちづくりへの転換が必要となります。

このように、地方においても大きな転換期を迎え、行政課題として全国的に市町村合併が進められるなか、平成18年3月6日に旧赤池町、旧金田町、旧方城町が合併し、福智町が誕生しました。

旧3町は、合併前まで、それぞれ総合計画をもとに将来像の実現に向けた行政運営を行ってまいりました。3町の合併に際し、下田川三町任意合併協議会で、平成16年2月、新町将来構想が策定され、さらに、赤池町・金田町・方城町合併協議会では、平成16年10月に「新町建設計画」が策定されました。

計画の位置づけと性格

この計画は、町を取り巻く自然環境、社会経済環境を認識し、長期的な視野をもって目指すべきまちの将来像を明らかにしています。それらを実現するための総合的、計画的かつ体系的なまちづくりの指針となる最上位の計画として位置づけられるとともに、町民に対してまちづくりの目標とその実現方法を示すものです。

また、まちづくりの目標を実現するための基本方向を示すとともに、町、県などの上位・関連計画との整合性を持たせていきます。

まちづくりの主要課題

自治体を取り巻く環境が大きく変化するなか、福智町のまちづくりの方向性を考える上では、こうした社会情勢の変化を適確に把握し、これらに積極的に対応していくことが求められます。ここでは、特に重要と思われる9つの時代の潮流と、それに対応するためのまちづくりの主要課題について整理します。

- 町民と行政が一体となった協働のまちづくりの推進
- 風土と文化に根ざした人づくりの取組み
- 国際化への対応
- 地域力による産業の振興
- 環境問題への対応と美しいまちづくりの構築
- 安全で安心して暮らせる社会の形成
- 高度情報・通信社会の進展
- 少子高齢社会における保健・医療・福祉の充実
- 地方分権時代に対応した財政基盤の構築

総合計画とは

地方自治法第2条第4項では「市町村は、その事務を処理するにあたっては、議会の議決を経て、その地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行なうようにしなければならない。」と規定されています。このように、総合計画は、地域づくりの最上位に位置づけられる行政計画です。



福智町総合計画審議会 会長
上田 毅 福岡県立大学教授

およそ1年間、延べ63回もの会議を経て答申した総合計画。各委員から活発な意見が出され、それぞれの思いが伝わってきました。みなさんに心から感謝しています。こうして苦労して練ったこの「基本構想」と「基本計画」をぜひ行政の「実施計画」に反映していただきたいと集います。そして、子どもたちが集まる笑顔の絶えない、住みやすい福智町であって欲しいと願っています。